

これまでの臨床研究紹介

薬学部 臨床薬学研究室 林雅彦

フレイル高齢者の自立度に応じた 薬学的管理に関する研究

- ① 分包紙開封性のスクリーニングのための代替指標に関する検討—手指巧緻性関連日常生活動作との関連—

背景

- 高齢者の服薬コンプライアンス向上を目的とした一包化調剤は有用である一方で、手指筋力および医薬品包装開封能力の低下した高齢者では、分包紙開封に困難を来し、治療に影響することが考えられる。
- 薬局窓口での高齢者対応において、外見・行動から医薬品包装開封能力を見極めることは難しい。直接開封可否を窓口で検証することは可能であるが、高齢者の自尊心を傷つけることも否定できない。口頭確認が可能な日常生活動作(ADL)で代替できれば、直接開封試験前のスクリーニング検査の役割となり得ると考えられる。
- 高齢者における散剤分包包装の開封には、ピンチ力との相関性が報告されている。握力などの手指筋力は加齢により低下し、50歳代から70歳代にかけて10年毎に約15%ずつ低下する。また、握力とピンチ力には関連性のあることが知られている。

目的

- そこで本研究では、手指筋力と口頭確認が可能な手指巧緻性に関わるADLの自己評価および分包紙開封性の患者意識（満足度）との関係を明らかにし、口頭確認が可能なADLで分包紙開封性の代替指標となる因子について探索を行った。

結果

● 分包紙開封性スコアと各調査項目との関係結果

調査項目	相関係数	P値
爪切りの操作性スコア	0.395	0.071
ペットボトルの蓋の開封性スコア	0.544	0.013*
箸の操作性スコア	0.477	0.029*
鉛筆の操作性スコア	0.313	0.152
服のボタンの着脱性スコア	0.259	0.235
握力(kg)	-0.001	0.995
ピンチ力(kg)	0.081	0.711

Spearmanの順位相関係数で解析

● 分包紙開封性スコアを目的変数とした重回帰分析結果

説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数 β	95% 信頼区間		有意確率 P	VIF
			下限	上限		
箸の操作性スコア	0.529	0.615	0.213	0.844	0.002*	1.000

ステップワイズ法による重回帰分析で解析 * $P < 0.05$

結 論

- 今回、対象患者の自己申告に基づく結果からではあるが、高齢者において箸の操作性評価が、一包化調剤された分包紙開封性評価の指標として活用できる可能性が示唆された。薬局の窓口で、箸の操作性を口頭確認することは服薬指導の一環として、短時間に可能であり、医薬品包装開封能力を把握するための代替指標として活用が期待できる。

相松伸哉. 他. 分包紙開封性のスクリーニングのための代替指標に関する検討—手指巧緻性関連日常生活動作との関連—
日本老年薬学会雑誌. 2023. (in press)